



学校経営方針 (学力向上にかかわる内容)

「知・徳・体のバランスのとれた子供の育成」 → 知 (確かな学力の育成)

基礎・基本の定着と共に、思考力・判断力・表現力を育成し、子供たちに確かな学力を身に付けさせる。

- ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、学ぶ意欲を高め、学習習慣を身に付けさせ、主体的に学習できる力を育成する。また、校内研究を授業力向上の場とし、研究を積み重ねていく。
- ・児童の思考プロセスを大切に、主体的・対話的な学び(課題解決型授業)を実践していく。

指導の重点

各教科 ○「開桜小学習スタンダード」(学習規律・用具・家庭学習)の指導を継続して行い、定着を図る。 ○児童の学習意欲の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○「大田区学習効果測定」などの結果や校内研究における実態調査等から児童の学力や学習状況を把握して授業改善推進プランを策定し、それに基づく授業改善を推進する。 ○算数科における習熟度別少人数指導を全学年で実施し、個に応じた効果的な指導を行う。 ○問題解決的な授業の実践によって学習の充実を図り、観察・実験、体験的な活動などを効果的に取り入れることで児童の興味・関心を高める工夫をする。 ○書き方を指導し、書く活動を意図的に増やし、書く力の伸長を図る。	総合的な学習の時間 ○これまでの学習で身に付けた知識・技能を活用しながら自ら課題を設定し、問題解決や探究活動に主体的、対話的、創造的に取り組む態度を育てる。 ○内川、ものづくり、海苔つけ体験、町工場調べ等、地域に関わる学習活動の充実を図る。 ○情報収集や自分の考えを表現する手段として、コンピュータ等ICT機器の効果的な活用の在り方と情報モラルに関する指導を充実させる。	特別活動 ○学級活動を通して、児童の自主的実践的な態度や健全な生活態度の育成を図る。 ○学校行事を通して、児童の集団への所属感や連帯感、自己肯定感等の育成を図る。 ○縦割り班活動を年間7回行い、異学年での交流を行うことで、他者への理解を深められるようにする。
	道徳教育 ○高い規範意識とともに、人を思いやり心や自他の生命・人権を尊重しようとする態度の育成に重点をおいた指導を実践する。 ○道徳教育の要である道徳の時間を、他の教育活動との関連を図りながら意図的・計画的に行う。 ○ねらいに応じた「考える道徳」「議論する道徳」に質的変換を図る。	外国語活動 ○外国の言語に触れたり外国の人と交流したりする活動を通して、様々な国の言語や文化に対する理解を深めたり親しみをもったりできるようにする。 ○外国語教育指導員と連携し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う。

平成29年度授業改善推進プランの評価

- 「授業改善プランチェックシート」を活用し、改善策を意識しながら日々の授業を進めることができた。
- 学習意欲が高まるように学習過程や発問、教具等の工夫を行ったが、児童の満足度はまだ高くない。さらに「わかる・できる」を目指して授業を構想していく必要がある。
- 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着できるように授業改善をさらに焦点化し、日々の指導の中で意識して取り組めるようにしていく。

平成30年度大田区学習効果測定の実績分析

- 昨年度課題が見られた、社会の「観察・資料活用」については、5・6年で正答率の向上が見られた。また、算数については前年度よりも正答率が向上している。
- 社会「社会的現象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」を問う問題、そして理科では各観点で課題が見られ、授業改善に取り組む必要がある。また、計画的に復習を行う必要がある。
- 活用的な内容の問題での正答率が、基礎的な内容の問題と比べて低くなっている。

授業改善に向けた視点

教育課程	指導内容・方法	評価	研究・研修	地域や家庭との連携
○ステップアップタイム(週2回)と補習(週1回、土曜日6回)を設定し、基礎・基本の定着を図る。 ○学力向上ウィーク(年3回)、漢検チャレンジウィーク(年2回)を設定し、復習に重点を置いた指導を行う。 ○朝読書(週1回)、開桜小読書週間(年3回)の設定、読書記録の改定と読書学習司書の活用により、読書活動を推進する。	○「開桜小学習スタンダード」を基に、学習に向かう構えを身に付けさせる。 ○東京ベーシックドリルや大田区漢字検定を活用し、学習内容の定着を図る。 ○基本的な知識の確実な定着を目指して、復習を授業時間内に定期的に行う。 ○書く活動とスピーチ活動の充実、国語辞典の活用、言語環境の整備により、言語力を育成する。 ○ICTを積極的に活用し、児童の理解度を高め、学習意欲の向上につなげる。	○学習のねらいを明確にし、確かな学力の定着に努め、指導と評価の一体化を図る。 ○毎月の授業改善推進プランチェックシートにより、実施状況を確認・検証し、授業改善に生かす。 ○学習効果測定の個人票を基に、児童が学習の定着状況を振り返り、学習計画を見直すように学習カウンセリングを行う。 ○保護者アンケート、学校評価を授業改善の資料とする。	○全学年で研究授業を行い、「書くこと」に関する意欲・技能を高めることができるような授業を展開する。 ○学期ごとに校内研修会を設定し、授業力の向上を図る。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、東京都教育委員会の研修、指導教諭の授業公開、区内の研究発表、外部の研修に参加したりして、授業力を高める。 ○OFF-JT(開桜未来塾)で教科指導や授業づくりに関する研修を定期的に行い、授業力を高める。	○「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭と協力して基礎・基本の定着のために取り組む。 ○授業参観と保護者会を同日に実施し、児童の様子や学習内容についての保護者の理解を促進し、連携の充実を図る。 ○開桜小スクールサポート(学校支援地域本部)により地域の教育力を組織化し、体験・交流などの学習を取り入れるなどし、教育活動をさらに充実させる。

